

日本野生動物医学会江別大会で 発表された研究概要

第 21 回日本野生動物医学会大会 実行委員長 浅川満彦

2015 年 7 月 30 日（木）～ 8 月 2 日（日）、北海道江別市に所在する酪農学園大学を会場に、第 21 回日本野生動物医学会大会が開催された。著者が事務局としてこの大会を運営するのは、1998 年の第 4 回大会以来、2 度目となる。その大会では大会長を旭川市旭山動物園の小菅正夫園長（当時）にご就任いただいた。「日本野生動物医学会は動物園水族館（以下、園館）が主役」と主張された大泰司紀之教授（北海道大学）の見解に基づいたもので、今回も、これに習い旭川市旭山動物園の坂東 元 園長に大会長をお願いした。この大会開催期日が園館繁忙期と大学試験期間とぶつかり、参加者確保に不安があったが、概して盛会であったのは、坂東大会長のネームバリューによるものであったのであろう。

大会概要は、日本野生動物医学会で刊行しているニュースレターで紹介されるので¹⁾、ここでは学術集会の華である一般講演の中味について概観したい。まず、一般演題の総数であるが、今回は 67 本、一昨年の京都大会 99 本、昨年のつくば大会 72 本に比べると、やや少なかったが、最悪な日程の中、よくぞこれだけ集まったものだと自賛している。

これら貴重な論文は、便宜上、「形態機能、防疫、寄生虫（病）」、「水族館その 1、感染症、病理、海獣調査」、「水族館その 2、動物園」および「培養細胞に基づく保全、野外生態調査、野鳥の大量死、外来種対策の新機軸」の 4 つのセッションに大別し、プログラム内に配置された（題名は表 1～4 参照）。「便宜上」とは、その前後に、関連するシンポジウムや自由集会、あるいは臨床ワークショップ

プなどへ関連させたからであった。そして、そのような企画にのみ興味がある方々も、一般講演に無理なく参加し、それぞれの演題を丁寧に論議されるよう、これまでの大会におけるポスター発表を行わず、江別大会ではすべて口頭発表とした。一般講演が行われた講義室は 200 名程が収容されるが、ほぼ満員の状態で、冷房機器はあるが、熱気を孕んだ状態であった（図 1）。

本学会は、前述したように、園館獣医師の参加がしやすいことを配慮した甲斐があり、関連の題目が過半数を占めていた（表 2、表 3）。実際、演題要旨に記載された発表者の所属別演題数が表 5 であるが、これを一瞥しても、

表 1 一般講演：形態機能、防疫および寄生虫（病）の題目一覧

アライグマ、タヌキおよびレッサーパンダの前腕骨格可動域に関する CT 画像解析
ライオンおよびユキヒョウにおける怪網の形態学的研究
カワウソ頭骨の日本と韓国の個体群における幾何学的形態計測比較
農業地帯における野生鳥類由来感染症の伝播経路の推定と防疫技術の提示
北海道に生息するタンチョウのマラリア保有状況調査
モンゴルの野生馬と家畜馬におけるピロプラズマ症感染の分子疫学調査
2013 年に実施されたモンゴル国の野生イヌ科動物の寄生蠕虫相調査
ストランディング個体を用いた日本沿岸のスナメリ (<i>Neophocaena asiaeorientalis</i>) の寄生蠕虫相調査
富山県産イノシシに寄生するブタ肺虫類 2 種の虫体数に影響を及ぼす要因
北海道網走市におけるオオアシトガリネズミ <i>Sorex unguiculatus</i> の寄生虫相と駆虫の試み
瀬戸内海の島に生息するアカネズミの寄生蠕虫相調査
インドネシア産ネズミ亜科動物における寄生線虫相研究概要

Mitsuhiko ASAKAWA：酪農学園大学獣医学部 感染・病理教育群（獣医寄生虫学ユニット）〒069-8501 北海道江別市文京台緑町 582

表2 一般講演：水族館その1，感染症，病理および海獣調査の題名一覧

野生ウシガエル幼生のシュウ酸塩腎症の発生
飼育下クロサンショウウオとハクバサンショウウオに発生した非結核性抗酸菌症について
動物園飼育下のオオサンショウウオ (<i>Andrias japonicus</i>) における内部寄生虫保有状況
水族館飼育板鰓類に認められた寄生虫
キタオットセイの転移を伴う皮膚悪性黒色腫の1例
飼育下におけるシワイルカとオキゴンドウの血中性ステロイド濃度の季節変動
バンドウイルカ における心房性ナトリウム利尿ペプチドの基準値に関する研究
動物の届出制度より見る我が国の動物の輸入状況について
ウシ族の進化とレンチウイルスの関連についての考察
ネコ APOBEC3Z3 多型と FIV 感染感受性との関係性
PCR プライマー対象最大化アルゴリズムを用いた網羅的ウイルス検出方法の開発
細菌属検出および同定用 PCR プライマー設計プログラムの開発
小樽市祝津沖のトド岩における野生トドの個体数推移
オタリア (<i>Otaria flavescens</i>) における鏡像自己認知
野生トド (<i>Eumetopias jubatus</i>) に見られた慢性化膿性子宮炎症の一例
北海道沿岸にストランディングした鯨類の臓器における金属濃度の測定とその比較検討
沖縄県黒島におけるアオウミガメの血漿中と周辺環境中の微量元素濃度解析
沖縄の野生および飼育ウミガメの血液中微量元素動態



図1 熱気に溢れた江別大会一般講演会場

多くの園館において研究活動が活発に行われていることが推し量れよう。内容的には臨床に関するものが多く、次いで、疫学調査などが続く。園館獣医師の多くにとって、日常業務の問題点を解決するために、参加されているのであ

表3 一般講演：水族館その2 および動物園の題名一覧

ペンギン科のアスペルギルス症早期診断のための検査方法の検討
23歳齢のフンボルトペンギン (<i>Spheniscus humboldti</i>) において認められた先天性心疾患 (エプスタイン奇形) の一例
皮膚抗酸菌症が疑われたバイカルアザラシの治療成功例
推定32歳の雌オタリアでみられた多発性嚢胞腎
ミナミバンドウイルカにおける骨髓炎の外科治療と術後管理
子宮蓄膿症を疑うハンドウイルカへのクロプロステノールの適用例
鯨類におけるリファンピシン反復経口投与における薬物動態
コツメカワウソの急性膀胱炎の一例
八重山諸島に棲息するアオウミガメのエンドトキシン活性値
飼育下ハンドウイルカにおける受診行動による抜歯の試み
イヌザメ <i>Chiloscyllium punctatum</i> におけるプロポフォール口腔内投与麻酔を用いた捕獲方法の有効性
水棲哺乳類における心臓刺激伝導系の病態生理学的検索
グラスカッター (<i>Thryonomys swinderianus</i>) における心臓刺激伝達系の病態生理学的検索
歯科治療をおこなったチンパンジーの5症例
1969年から2014年の間に収容されたタンチョウの記録
海ワシ類におけるX線心陰影評価法の検討
シンガポール国ジュロン・バード・パークで飼育されていたレンジャクバトにおける心筋微孢子虫症
動物園内で有害捕獲された野生哺乳類の寄生虫保有状況
国内飼育下フクロテナガザルにおける適切な個体群管理に向けた個人情報収集と評価
飼育下オグロワラビー (<i>Wallabia bicolor</i>) 4頭で認められた尿路結石症
カンガルー病罹患カンガルーの血漿エンドトキシン活性値
妊娠に伴うレッサーパンダの糞中性ステロイドホルモンの変化



図2 江別大会会場受付脇に設置された診療機器企業ブースを訪れた酪農学園大学獣医学類長・中出哲也教授 (右)

表3 つづき

アンドロジェン受容体を発現するヒグマ (<i>Ursus arctos</i>) の背部脂腺は血中テストステロン濃度の高い交尾期に発達する
ウシ科動物から採取した精子のフリーズドライおよび凍結保存法の開発
センサーネットワークによるツキノワグマ (<i>Ursus thibetanus</i>) の腹腔内深部温度の取得
新たなゾウ用代乳の開発について

表4 一般講演：培養細胞に基づく保全、野外生態調査、野鳥の大量死および外来種対策の新機軸の題名一覧

ヒト由来遺伝子を使用した鳥類の不死化細胞の樹立の試み
染色体異常を伴わないローランドアノア線維芽細胞由来の不死化細胞樹立の試み
CDK4, Cyclin D, TERT の発現はアフリカサバンナゾウ由来の培養細胞の分裂回数を増加させるが無限分裂化までは至らない
生理的寿命を終えた展示動物由来組織を用いた初代培養細胞の樹立および体細胞核回収の試み
Triple TOF LC/MS/MS による展示動物由来組織を用いた質量分析の検討
長野県飯田市浄水場汚泥処理施設で大量死したイワツバメの病理学および寄生虫学的検査
ある一個体のボルネオオランウータンのトラッキング調査における成果
神奈川県野生ハクビシン (<i>Paguma larvata</i>) における性年齢別の栄養状態指標の季節変化
外来哺乳類の個体数制御法としての避妊ワクチンの展望と課題
特定外来生物マングースにおける化学的防除手法 (ダイファシノン) の検討
ファイマングース (<i>Herpestes auropunctatus</i>) における避妊ワクチン抗原候補ペプチドに対する自己抗体産生能の評価

る。会場に設置された企業ブースでも、最新診断機器の展示があり、江別大会の会場となった酪農学園大学の獣医学類長を務める中出哲也教授 (画像診断学) が熱心に見学されておられる姿が印象的であったが (図2)、このような大会は、臨床あるいは疫学の教育研究を担う大学教員と園館獣医師とが、活発に情報交換をする場として理想的な契機であろう。今後も大切にしていきたい。

引用文献

- 1) 浅川満彦 (2015) : 第21回日本野生動物医学会大会 (江別大会) 開催報告, *ズー・アンド・ワイルドライフニュース* (日本野生動物医学会ニュースレター) (41), 印刷中.

表5 一般講演者の所属機関 (園館, 大学など) 一覧 (ABC順) とそれらの題目数

A	愛知学院大学 1, アーズ株式会社 1, 秋田市大森山動物園 1, 旭川医科大学 1, 旭山動物園 1, 麻布大学 1
C	Charles River Laboratories 2
E	EnVision 環境保全事務所 1, エルザ動物医療センター 1
F	FEAC 1
G	ガーナ大学 1, 岐阜大学 3 姫路セントラルパーク 2, 広島市安佐動物園 3, 北海道大 学 2, 北海道立衛生研究所 1, 北海道立総合研究機構 2, 北海道動物運動器病院 1, Hustai National Park Trust 1
I	インドネシア科学研究院 1, 到津の森動物公園 3, 岩手大 学 1, 岩手医科大学 2, 伊豆三津シーパラダイス 1
K	神奈川県農業技術センター 1, 環境省 2, 近畿大学 2, 神 戸市立王子動物園 1, 厚生労働省 1, 国立がん研究セン ター 3, 国立科学博物館 1, 国立環境研究所 4, Korean Otter Research Center 1, 釧路市動物園 3, 京都水族館 2, 京都大学 8
L	ルイジアナ州立大学 1
M	マリニア日本海 1, マリンワールド海の中道 2, 三重 大 学 2, Ministry of Health of Mongolia 1, Mongolian Academy of Science 1, 猛禽類医学研究所 1, (株)森乳サン ワールド 1, 盛岡市動物公園 1
N	長崎大学 1, 長崎バイオパーク 1, 日本大学 5, 日本学術 振興会論博事業 1, 日本獣医生命科学大学 3, 日本モン キーセンター 1, 日本ウミガメ協議会 2, 新潟薬科大学 1, のぼりべつクマ牧場 1, 登別マリンパークニクス 1
O	OAT アグリオ(株) 1, 帯広畜産大学 5, おびひろ動物園 2, 大分大学 1, 大分マリンパレスうみたまご 1, 岡山理科 大学 1, 大川原歯科医院 1, オキナワマリンリサーチセン ター 1, 沖縄美ら島財団 4, 大阪・海遊館 2, 大阪市天王 寺動物公園事務所 1, おたる水族館 1
R	酪農学園大学 23, 琉球大学 2
S	仙台市八木山動物公園 1, Seoul National University 1, 下関市立しものせき水族館 2, 新江ノ島水族館 4, 森林総 合研究所 1, 自然環境研究センター 1, ソニックジャパン (株) 1, STAR DIVE RESORT 1
T	タンチョウ保護研究グループ 1, 東北大学 3, 東京大学 1, 東京医科歯科大学 2, 東京農業大学 2, 東京農工大学 3, 富山大学 1, 鶴見大学 1
U	USDA 1
W	ウィスコンシン州立大学 1
Y	山口大学 1, 横浜市緑の協会金沢動物園 1, 横浜市緑の協 会野毛山動物園 1, よこはま動物園ズーラシア 1, よみう りランド 1
Z	ゼムハウス PADI 1